

朝日町宝ノート No.0801 「山の人長岡昂司さんが描く朝日連峰」

ひとつひとつ描かれた木々

力強い山の稜線

“シン”という音がみえる空気と空

長岡さんの絵を初めてみせていただいた時、

「あ、山だ。これは朝日町の山だ。」

という言葉が私の口から流れ出ました。

長岡昂司さんは、長沼で生まれ

現在は太郎に居を構えています。

鳥原山の山小屋で働き、朝日連峰を

日々みつめて暮らされています。

絵には人がそれぞれ生活で培ってきた

視点ができます。

ある春の日、^{とち}枌の木を観察されている

長岡さんにお会いしました。

陽の傾きと共に在りようを変えていく

葉の様子を、刻々と観察し、その変化に

感嘆の声をあげながら紙に描きとめて

いらっしゃいました。



トビタケと長岡氏

長岡さんの描かれる絵に、描いているモチー

フにプラスされた、^{せいひつ}静謐とした

静かな時間の流れを感じるの、

こういった視点をお持ちの方が描いたから

ではないでしょうか。



作品：端材に描いた早春の木川ダム

「山にいるといろんな人との関わりがあって

楽しい。町にいる時は声を かけない。

山では会話がある。それが楽しい。」

「山は川より体に”くる”ものがある。」

という、それぞれそのままの視点が、描いているも

のひとつひとつをなぞる

生き生きとした視点となって観ている人に

伝わってくるのです。

報告/田中敦子 あとリエマサト代表
東北芸術工科大学日本画コース副手

長岡昂司（ながおか・こうじ）氏

プロフィール

1959年朝日町長沼版画家阿部功雲の分家に生まれる。

大工歴33年。

年間、鳥原山に約30回、大朝日岳に5～6回登る。

朝日山岳会理事。朝日町山岳遭難救助隊員。

朝日町太郎在住。